

>>102

透析医療の現場を訪ねて FROM B.P. ROOM



● 病院概要

所在地	〒701-0303 岡山県都窪郡早島町前湯277番地
開院	2024年10月
院長	松原龍也
透析ベッド数	30床
透析患者数	30数名
関連透析施設	しげい病院 重井医学研究所附属病院 幸町記念病院

【社会医療法人 創和会 しげい腎クリニック早島(岡山県都窪郡早島町)】

2024年10月に開院した社会医療法人創和会 しげい腎クリニック早島は、岡山県下有数の透析患者数を誇る同法人初の透析専門クリニックである。法人内の既存病院の透析医療を補完しつつも、クリニック独自の特徴を前面に打ち出し、地域の顔となるべく歩みを始めた。クリニックの概要などについて伺った。

Interview

松原龍也先生

TATSUYA MATSUBARA

社会医療法人創和会 しげい腎クリニック早島
院長

本クリニックは、同時透析数が県内で1位から3位を占めるしげい病院、重井医学研究所附属病院、幸町記念病院(2025年度に同法人化予定)を有する社会医療法人創和会初の透析専門のクリニックとして2024年10月に開院しました。これまでの関連施設が手狭になってきたことと、周辺地域は透析施設があまりなかったこともあり、開院の地には岡山市にある重井医学研究所附属病院と倉敷市にあるしげい病院(私の前任地)のほぼ中間地点に位置する都窪郡早島町が精選されました。

本クリニックは入院施設を持たず通院のみに対応しています。特に比較のお元気で自立して通院できる患者さんの治療を担うことで、既存の2病院の自立患者さんにも移っていただき、入院が必要な患者さんには既存施設で手厚いケアを提供しようと考えたことも開院理由の一つです。現在、のどかな田園が広がる風光明媚な場所に位置していますが、将来的に倉敷と岡山を結ぶ主要道路がクリニックの前を通る計画もあり、実現すれば交通アクセスが更に便利になります。

早朝透析が実施可能

現在、本クリニックには30数名の透析患者さんが通院されています。本クリニックは透析開始時間が午前7時半と比較的早い点、自分の生活スタイルに合わせた透析時間が設定しやすい点は大きな特徴です。既存の2病院は夜間透析、オーバーナイト透析には対応していますが、早い時間帯の透析の要望には応えできていませんでした。「朝早く透析を終えて仕事ができるのは非常にありがたい」と本クリニックに移った患者さんもおられます。透析患者さんの要望にシームレスに応えるためにも、本クリニックは創和会の一員として比較的手薄だった透析サービスの提供を重要な役割と考えています。また、早朝透析は生活習慣や栄養面でも良い相乗効果が得られ、認知症、サルコペニア、フレイルなど加齢に伴う負のスパイラルを寄せ付けない健康寿命の延伸が期待できます。

エンジョイ 透析ライフ

本クリニックでは、「エンジョイ 透析ライフ」をスローガンに掲げています。例えば、早い時間帯や好きな時間帯に透析を行うことで、仕事の時間を確保したり、リタイアした方であれば趣味や社会活動など

の時間を設けやすくなります。透析しながらも自分の時間を楽しんで充実した生活を送っていただけるよう、患者さんの生活のサポートに力を入れていきたいと思っています。

透析室の特徴

透析室は現在30床あり、室内はゆったりと広い作りで、患者さんのプライベートをできるだけ尊重し、人目を気にせず透析が受けられる半個室タイプとしています。ただ、スタッフがある程度患者さんの様子うかがえるように、ベッド間の仕切りはすりガラスを採用しています。

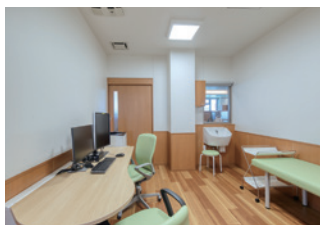


↑透析室。ベッド間の仕切りはすりガラスを採用。間接照明や工夫された空調システム、ウッド調のインテリアなどで居心地の良い空間づくりに努める

インテリアはウッド調の床や建具で落ち着いた空間を演出しています。ベッドは透析中もリラックスしていただけるように、幅が広く、寝心地、座り心地が良いフランスベッド社製を採用しました。

透析室の照明は落ち着いた間接照明を採用し、患者さんは透析中に眩しさを感じることなく快適に治療が受けられます。空調設備は直接風が当たらないシステムで部屋全体の温度を管理しています。また感染対策の一助として、空調によって空気の流れを一方方向にして細菌やウイルスなどの拡散を抑制しています。

早島町は、い草およびい草製品の町として発展してきた歴史を踏まえ、透析室はじめ診察室など室内はい草カラーのグリーンを随所に配しています。



↑い草カラーを採り入れた落ち着いた居心地のある診察室

感染対策

コロナ禍の経験なども踏まえ、正面玄関の東側には感染対策のための別玄関を設け、一般患者さんと感染対策を要する患者さんの動線をはっきり分離させました。別玄関からは専用の診察室、トイレ、専

用個室へ直接行くことができます。職員がガウンや手袋等の個人用防護具を着用するための部屋も診察室手前に準備しました。透析室の個室は1床ですが、さらに感染者が複数発生した際には、平時には格納されている可動性の間仕切りを用い、30床のうち6床を完全に仕切ることが可能になります。



↑正面玄関とは別に感染対策用玄関を設ける

災害対策

この地域は比較的低地であるため、水害対策を重視し、玄関は普段、収納してある止水板を装着できる作りをしています。また、機械室の機器には最新の免震装置を設置し、透析液供給装置などを守り、被害を最小限に抑える工夫を施しています。

理念と治療方針

透析患者さんはCVDなどの合併症を契機に体力が低下したり、亡くなれる方が少なくないので、そうした異変をできるだけ早期に発見し、治療に結び付けることを心がけています。下肢創などの小さな異変も見逃さず早期発見し、治療に繋げるため、患者さんのフットケア専用の部屋も設置し活用しています。



↑フットケア専用ルーム

また、透析アミロイドーシスの予防やKt/Vなどを見据えた透析効率の向上に努めるとともに体重や体液量管理にも注力しています。透析患者さんは栄養状態の悪化から、サルコペニア・フレイルとなるリスクが高まるので関連施設から栄養士やST(言語聴覚士)などの派遣を適宜依頼しています。高齢患者さんのサルコペニア・フレイルを防ぎ、元気に自分の生活を楽しみながら健康寿命の延伸を図ることが本クリニックの重要な責務と捉え治療にあたっています。

透析施設としては非常に快適な環境を提供できていると自負しており、この良さが皆様に認知され、更に多くの患者さんにご利用いただければと願っています。また将来的に条件が整えばCKD外来や腹膜透析および在宅血液透析患者さんの受け入れも進めていきたいと考えています。

【社会医療法人創和会 しげい腎クリニック早島(岡山県都窪郡早島町)】

スタッフから一言

私は、臨床工学技士として創和会に入職しました。2010年から7年間は重井医学研究所附属病院臨床工学部の技士長を務めた後、事務部門に異動し現在は統括マネジャーとして勤務しています。2011年からの9年間は岡山県臨床工学技士会会長も務めさせていただきました。



田中昭彦
統括マネジャー

本クリニック開院については、プロジェクト決定の2年ほど前から、土地の選定、地域の医療状況の調査、建物の設計、クリニックのコンセプト作りなど一貫して関わってきました。当時、附属病院には400名を超える透析患者さんが通院されており、新たな透析施設が必要でした。この場所で開院することになったのは、土地選定の過程で本地域で患者さんのニーズが多いことが明らかになったためです。早島町は、岡山県下で唯一人口が増えている地域です。地理的にも岡山市と倉敷市の中間に位置し交通の便も比較的良く、地域に根ざした透析施設を育てていく上で適切な場所だと考えています。

最良の透析施設を目指して

当初から、県内で最新、最良の透析医療を提供する施設にしようとの意気込みで、機器・システムはもちろん、人材も法人内の他施設から新しいチャレンジに対してやる気溢れる優秀なスタッフを確保しました。スタッフを提供してくれた施設からは若干不満の声が上がったほどです(笑)。

さらに本クリニックでは、院長が申し上げたように患者さんにはできるだけ自宅で過ごすのと同様にリラックスして透析を受けていただけるよう、プライベート空間の確保に努め、インテリアや照明、空調、ベッド間の仕切りなどに工夫をこらしました。

今後は、今注目のSDGsを意識し、例えば、持続的な電力供給の実現のために太陽光パネルの設置を予定しています。また現在、透析用水は水道水を電気ヒーターで加温していますが、体温程度に温まっている透析液の排液を透析用水の加温に利用するヒートポンプシステムを導入し消費電力削減対策も予定しています。

前述のように、設備、スタッフともども出来る限り充実させようと注力したので、今後もグループ施設の中でも特に魅力的な透析室にしようとの強い気持ちで運営していく所存です。当法人の中で最も規模の小さい透析室ですが、当法人に入職したら、誰もがこのクリニックに勤めたいと思ってもらえるような場所にして、ここをハブにグループ内のスタッフ同士の交流を盛り上げたいと思っています。

本クリニックでは4名の看護師が勤務しています。私はしげい病院の副看護部長を務め、透析看護師として10年ほどの経験があり、本クリニックではマネジャーの立場ですが、看護師スタッフの一員として日々患者さんのケアにあたっています。



松田佳子
マネジャー

今回の開院に向けて私が重点的に考えたのは、環境を整えることでした。病院とクリニックを比

べると、病院の方が診療科が多く24時間診察可能で、専門医や多職種も揃っており感染対策や安心・安全の観点からは有利だと思います。しかしクリニックは少人数の患者さんを対象にしているからこそ、個々に寄り添った透析環境を提供できる良さがあると考え、透析時間、透析中の環境(透析ベッド、各種設備)など、患者さんの生活を中心に考えた快適に過ごせる透析環境を整えました。例えば、透析ベッド間の仕切りにすりガラスを用いていますが、一般的な衝立よりも圧迫感がなく明るい空間を確保できています。また、透析中の過ごし方にも影響を与えるベッドは従来のものより患者さんの体を包み込むよう設計され、ギャッジアップ時の座り心地もよく、本クリニックを選んでいただける利点の一つだと思っています。

「エンジョイ透析ライフ」に繋がるサポートを重視

また、病院は患者さんが多く待ち時間が長くなりがちです。本クリニックでは、必ず予約の開始時間通りのスタートを徹底して、患者さんをお待たせしません。スムーズに透析を受けていただくことで、患者さんには他の時間を有効に使っていただけます。こうしたことが本クリニックのスローガンである「エンジョイ透析ライフ」につながっていると思っています。

看護・治療の面では、創和会グループの病院から適宜多職種スタッフを派遣してもらい、シャント管理や定期検査は創和会グループ病院へ検査を委託します。患者さんへのサービスを充実させることで患者さんの不安をカバーし、患者さん一人ひとりに対してきちんと説明をし、ご理解を得ながら丁寧に進めていきたいと思っています。

患者さんの看護で心がけているのは、患者さんのお話をよく伺うことです。私たちは透析だけ診ているわけではなく、その患者さんの生活全体を見させていただきたいので、ご自宅での状況やご本人の悩み、気にされていること、生きがいなどについてもしっかり伺って、どのようなサポートであれば充実した生き方につながるか、技士はじめ他のスタッフ皆と一緒に考えています。

患者さんはどうしても透析中心の生活になりがちです。しかし、本クリニックに通う患者さんには透析を受けながらも趣味や生活を大事にして、それぞれの人生を十分に楽しんでいただける、そんなクリニックにしていきたいです。

私は以前、法人内の病院で副主任として技士業務を行っていました。本クリニック開院準備にあたり田中統括マネジャーから準備スタッフの一員になるよう声をかけていただき、主に医療機器、備品などの選定、基本業務計画などに携わりました。お声がけいただいた時は、驚きと戸惑いもありましたが、新しい環境での新しいチャレンジに大いに魅力を感じました。実際、プロジェクトの一員として、意見を反映させてもらうなど楽しく取り組みいい経験になりました。



武智和希
副主任
臨床工学技士

統括マネジャーと一緒に機械室の設計や機器

の選定に携わりましたが、特に医療機器の選定を行った際は私の知識や要望を尊重していただきました。機械室内に粉末透析液の粉塵が飛散し、機械のファンなどに付着するといった報告があったため、本クリニックでは換気扇のダクトを機械類の直近に設置して粉塵の飛散を最小限に抑え、溶解装置周辺をカーテンで仕切って粉塵の付着をガードするなどの工夫をしています。



↑最新機器を揃えた機械室。右端に見えるのが換気扇ダクト

クリニックの利点を活かした質の高い透析治療を提供

本クリニック勤務の臨床工学技士5名は、いずれも10年以上の経験を有するスタッフのためスムーズに業務を行うことができています。透析治療においては、HDとI-HDF、on-line HDFを使い分けています。今のところ患者さんは比較的元気な方が多いので、尿毒症や透析アミロイド症を意識した中分子量物質の除去を主目的にHDF施行が多くなっています。HD、HDFの使い分けは、アルブミンが低値の場合はI-HDFを選択するなど、患者さんのデータによって適宜対応しています。患者さんの状態を見て今後の治療方針を検討し医師に提案することは技士の重要な役割と考え、日々の業務に当たっています。

患者さんと接する際は、横文字の多い医療用語や難しい専門用語は避け、分かりやすく説明することを病院勤務の頃から心がけてきました。医師が患者さんに説明された後に私から患者さんに声がけて、少し砕いた内容をお伝えしフォローしています。

病院勤務のときは患者さん全員のデータを把握するのはなかなか大変でしたが、患者さんの人数がある程度限られるクリニックではきめ細かく対応できることが大きな利点です。私を含めスタッフ全員が患者さんのデータをしっかり見ながら最新の機器や治療法を使いこなし、他施設に劣らない優れた透析治療を提供できるよう日々業務に励んでいます。



↑スタッフの皆さん